

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3491500819		
法人名	介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう金丸		
所在地	広島県福山市新市町大字金丸506番地		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成24年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人様、御家族様の希望・要望を聞きながら、重度化や、終末期の支援も柔軟に対応している。病院から、治療・回復の見込みがないと言われ、在宅での看取りに不安を抱えている御家族様と話し合いを繰り返し行い、グループホームでの看取りの受け入れ及び、御家族様の精神面でのケアにも力を注いでいる。開設から、1年半の期間中に、4名の看取り介護をさせていただいた。2つのユニットを持っているという側面を活かし、認知症レベル・身体レベルに合わせたグルーピングを行い支援にあっている。地域との交流を図るため、地域行事に積極的に参加させていただいている。また、地域の祭やイベントに救護班として参加をし、地域の方にも喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「菊の里」として知られる市北部の山間部にあり、併設の小規模多機能事業所と共に地域に根付くような様々な地域行事に積極的に出向かれ、開設年数の浅い事業所であるが地域住民が日課のように訪問される方もおられ、開かれた事業所と成るべく取り組みをされ、更に浸透していくことを目指している。スタッフは看護師も多く、利用者、家族にとって緊急時や重度になった時の安心感が高い。日々のケアについての記録物は、利用前後の利用者の情報を細かく分析し、日常の様子や具体的なケアに繋がる内容となり工夫が随所に見られる。明るい雰囲気のある事業所は笑顔がこぼれ、利用者・職員が地域の方が多く今後においても地域と共に歩んでいくことを基本と考え、まさに地域に密着した事業所として今後も期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内の経営理念は、毎朝の朝礼時に出勤者全員で唱和し、業務にあたっている。また、グループホームの運営理念を、職員全員からの声・意見により作成し、日々のケアにあたっている。	朝礼時経営理念を唱和し、職員個々意識を持ち理念に立ち返る原点としている。さらに日々利用者の気持ちに寄り添い理念をケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の祭やイベントに参加することはもちろんのこと、日々の散歩などにおいて地域の方にゆうゆう金丸を知っていただくために積極的に地域に出ている。また、買い物なども、地域のスーパーでの買い物を行い、日常的な関わりを行っている。	地域行事が盛んであり祭り、イベントには利用者と共に積極的に参加している。地域のスーパーを定期的に利用し散歩時には花や野菜を頂ける関係が築かれ、地域に溶け込むよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のいきいきサロンにて、認知症についての講演を行ったり、認知症アドバイザーの資格を有する職員が認知症サポーター養成講座を定期的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度の頻度で、運営推進会議を開催し、運営・行事報告や、事業所が地域の中で、どのような役割を果たしていくことが望まれているかなど話し合いを行う機会を設け、その意見を運営に反映している。	2~3カ月に1回隣接する小規模事業所と共に合同で開催し事業所の現状報告を行うと共に検討事項について参加者から意見を聞き取り、サービスに即取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったこと、不明なことなどあれば、担当の方に聞きながら対応するようにしている。	運営推進会議には毎回出席されているので顔見知りの関係となっている。不明な点があれば遠慮なく聞き積極的に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けて、研修を行いながら、ケアにあたっている。緊急やむを得ない場合には、説明と承諾を頂き実施し、早期に廃止できるように努めている。夕方から、翌朝にかけては、防犯上の観点から、玄関の施錠を行っている。	身体拘束を行わないことを原則とし、職員間での徹底に努め外出傾向の強い方には無理に行動を制止せず、併設小規模事業所と連携を取り見守りを行っている。地域の方が利用されているので外に出られていても住民が事業所に連れてこられたケースもあり連携もできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修・勉強会を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は対応できる程度の学習を行っているが、全ての職員が学び、活用できている段階ではない。今後、勉強会などを行い、基礎知識からの学習を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・解約などの際には、御本人様が同席できる状態なら、同席していただき、御家族様と共に話をさせていただいている。不安や、疑問などをしっかりと聞きながら、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日々の関わりの中で、御家族様からは、家族会の際や面会時などに意見や要望をお聞きし対応している。	家族の訪問時や家族会、プラン作成時個別に聞く機会がある。遠方の家族には電話で日々の様子を伝え、なんでも言っていたるようにしている。意見要望については申し送りノートで共有し検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議や、定期的で開催するカンファレンスなどの機会に職員からの意見や提案を聞き、業務改善に向け取り組んでいる。	月1回の全体会議やケアカンファレンス又、朝・終礼時意見を聞きとっている。又職員と共に日々関わるなかで察知し声をしたり、個別に聞く機会もある。職員も提案しやすく内容を協議し、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行い、個々の想いや感じていること、勤務状況や労働状況などを把握し、よりよい事業所運営に反映していく努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップを望み研修に参加意欲のある職員に対し、助成などのバックアップを行っている。また、社外研修の案内などを掲示し、スキルアップに向けての支援体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームが集まり、月に1度ミーティングを行い交流の場を設けている。また、他の事業所に見学・研修に行ききをする機会を設け、サービスの質向上に向けて取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安の解消を軽減する為に、担当制をとり、しっかりと人間関係を構築することを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、アセスメントを行い、御家族様が不安に思っていること、要望などを聞きながら、支援について共に検討していく努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、アセスメントを行いながら、ご本人様・御家族様の今困っていること、必要としている事柄を把握し、支援につながるよう時間を十分にとりながら、話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りなど、利用者の方に教えていただきながら行っている。会話の中でも、昔のことを教えていただけるような声かけを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会のお願いや、家族会への参加の呼びかけ、ご本人様の支援を共に行っていただくようお願いし、協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方、友人の面会など、積極的に受け入れている。また、声かけなども行っている。また、地域の交流館に出かけ、顔なじみの方々とのふれあいを大切にしている。	利用者が地域の方も多く近隣の方や友人の訪問がある。毎日の訪問を日課のようにされている地域の方もおられ、訪問しやすい雰囲気をつかぎ知ることが出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に出来る活動を協力して行える環境(食事作り・買い物・洗濯物など)を提供し、職員の見守りの中、支えあいながら一つの事柄を行えるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人様・御家族様の支援を行っている。葉書を出すなどその後のフォロー・支援にあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などのアセスメント情報から、一人一人が望む暮らしが提供できるように努めている。また、困難な場合は、御家族様からの協力も得ながら検討を繰り返し行っている。	利用開始時細かい情報を聞き取ったものを基にし、個性を十分把握した上で毎朝何がしたいかを聞き取っている。聞き取った希望は出来る限りその日のうちに実現できるようにしている。思いの表出が難しい方に関しては行動や表情で察知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを時間をかけてとり、日々の生活・支援につなげられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種アセスメント方式を使い、情報の収集に努めている。定期的な見直し・更新を行いながら、一人ひとりの現状が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、ケアカンファレンスの中で、それぞれの意見を出し合いながら、介護計画の作成にあたるよう努力している。	基本情報を基にアセスメントで出来ることとできない事を明確にし担当者会議を開催し日々の関わりの中での情報を取り入れ計画を作成している。本人や家族の思いに添ってるか確認し必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランを反映した介護日誌を書くよう、職員全員で学習をしている段階。まだ十分とはいえないが、少しずつ、おひとりおひとりの生活や想いが見える記録物へととなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人は、GHだけでなく、様々な機能を持った事業所を抱えているため、ご本人様・御家族様の希望・状態により、適切かつ柔軟な対応を心がけ、最善の方法・場所で生活を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに積極的に参加をさせていただき、地域と共に歩ませていただけるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はもちろんのこと、各利用者の望むかかりつけ医で適切な医療が受けられるよう支援している。協力医療機関以外のかかりつけ医の受診は基本的に家族の対応をお願いしている。	利用者の希望するかかりつけ医となっており、家族と協力し適切な医療が受けられるよう努めている。受診結果や薬についての情報は家族と共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携がないと、重度化への取り組みは行えないと痛感している。それぞれの業種が持っている良さを活かしながら、協力をし、支援にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者・看護師が同行し、病院関係者と情報交換を行い、早期治療・退院に向けての話し合いを行っている。また、面会なども行い、状態・経緯を確認するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期の意向確認などを早期から行うようにしている。当事業所で出来ること・出来ないことをきちんと説明した上で、家族の意向を伺い、書面に残している。	重度化における指針を説明し、利用者家族の意向について確認書を取っている。状態により随時説明を行い、事業所が対応しうる支援方法を説明し確認している。看護師も多く、職員の不安をできるだけ軽減する取り組みもされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・勉強会などを行い、実践に向けてひとりひとりの職員の力をつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などの中で、地域の方々に協力を依頼し、具体的な方法なども検討させていただいている。	災害における研修を実施し職員で意識を持って取り組み、運営推進会議においても地域の方へ協力のお願いはしている。避難訓練は近々予定をされている。	事業所だけの訓練でなく、地域住民の参加、協力を得ながら、災害等の発生に確実に避難誘導ができるよう定期的な訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い、言葉遣いの改善に向けて定期的に研修を行っている。出来ていない職員には、個別に指導を行い改善を図る努力を行っている。	接遇研修で定期的に職員への意識統一をしている。個々が接遇に関する冊子を携帯し、正しい認識を持っている。又、自己評価、他己評価をし、互いの言動を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを聞きながら、実践できるよう努めている。また、思いが引き出せるような言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいか・何をしたくないかなど希望を聞きながら、本人の想いを優先し支援が出来るよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪・カラー・パーマをはじめ、おひとりおひとりが自分の選択のもとで行えることを支援していくように努めている。また、買いものに同行するなど、本人が望む身だしなみを支援していく努力を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付けなどを利用者と職員と一緒にやっている。それぞれの好みや能力に合わせ、出来る事を一緒にやっている。	利用者と共に一緒に助け合い本人が役割を持ってされる利用者もおられ、力量に応じて食事の準備を行っている。作業がしやすいよう何力所かに分けて動きやすい環境作りも行っている。病状で制限のある方は配食サービスを利用されている方もおられる。食事中も会話をしながら楽しい雰囲気であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック・水分摂取量の把握に努めている。糖尿病などにより、食制限があり、当事業所での食事コントロールが不可能な方には、配食サービスを取り入れている。また、食事形態や好みのものを個別に提供できるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。利用者の状態に合わせ、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が行えるよう支援している。オムツから、紙パンツ。紙パンツから布パンツへの自立に向けた支援にも取り組んでいる。	できるだけトイレで気持ちよく排せつしていただけるよう時間や個別チェック表を参考に誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の際には食物繊維の多いものを使用するなどの努力を行っている。便秘解消薬の使用なども行い、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望時間がある方に関しては希望に合わせて支援を行っている。本人の希望の合わせて、入浴時間・入浴回数を決めている。基本的に、入浴日は決めず、希望者が入れるよう支援している。	入浴日は基本的に決めず利用者の希望を聞き支援に繋げている。状態で入浴が難しい方についても対応方法を工夫した入浴をされ、清潔とリフレッシュできるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に沿った時間・場所で休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握し、異常のあった際には、看護師・主治医などへの連絡を行い対応している。誤薬に注意をし、チェック・声出しでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の嗜好品、楽しみなどをアセスメントし、実践していけるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・買い物など、外に出ることを支援している。また、不定期ではあるが、担当職員が、利用者の行きたい場所を聞き、一緒に計画をし、実施するなどの取り組みを行っている。	日々の散歩や買い物は日常的に行っている。又利用者の思いを優先に個別に外出計画を立て、自宅やお墓参りなど、思いで深い場所へ出かけそのときの反省点や感想を記録し次の外出の支援に繋げ、利用者の満足感も得られている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している方もいるが多くは、施設管理となっている。もの取られ妄想や、しまいこみにより無くなったとトラブルになることも多いため、各人の認知症レベルに合わせて対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方には、積極的に支援を行っている(電話も手紙のやりとりも)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い、混乱を招く刺激がないよう配慮している。また、玄関・フロアに季節の花・地域の方から頂いた花を飾り、季節を感じられるように努めている。トイレ掃除・洗面台の掃除は時間を決め、清潔な空間作りに取り組んでいる。	家庭的な雰囲気や季節の花が飾られ、温かみのある空間である。清潔であり利用者の状態に配慮した配置がされ、落ち着くことができる。リビングの一角にある台所からは調理の音やにおいが感じられ、五感の刺激となり、空調も適度が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が、思い思いの場所で、過ごしたい人と時間を過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なじみのものの搬入を積極的に受け入れており、お願いを行っているが、なかなか、持参していただけてないのが現状である。今後も、努力をしていく必要がある。	個々の状態にあったレイアウトがされ写真や作品が飾られている。使い慣れたものを持ち込んで頂くよう家族にお願いされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど分かりやすい表示を行っている。安全に配慮し、環境整備を行っている。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害における研修を実施しているが避難訓練はまだ行えていない状況にある。	年2回計画を行い、災害時を想定した避難誘導訓練を実施する。事業所だけでなく地域の方の協力、参加をお願いする。	運営推進会議の中で地域の方々に説明、協力を頂き年間2回の災害時を想定した訓練を行う。	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。